

令和4年度

北海道教育大学

附属函館幼稚園だより

NO. 4【号】



## 物語の内容理解と絵本の選書

附属函館幼稚園園長 外崎紅馬

先日、大学で『オオカミと少年』と『北風と太陽』を教材に講義を行った。どちらも言わずと知れたイソップ童話である。前者は「オオカミが来た！」と何度も村人にウソをつく少年の話で、後者は旅人の上着を脱がせる勝負をした北風と太陽の話である。講義中、何の気なしにこの2つの物語を知っているか尋ねたところ、『オオカミと少年』は知っているが、『北風と太陽』は初めて聞いた」という学生が講義室全体の半数を占めた。「言わずと知れた」物語ではなかったのである。

思えば、私自身が童話やおとぎ話に触れたのはいつだったろうか。子どもの頃であることは間違いない。おそらく家にあった絵本であったり、子供向けのテレビ番組からだったり、通園していた幼稚園での紙芝居や絵本の読み聞かせによるものだったりだと思う。いつのまにか知っていた物語もあれば、絵本の挿絵とともにいつ読んだのかはっきりと思い出せるものもある。

先月、私の研究室に所属する学生たちと雑談をしていた際、『ジャックと豆の木』の話になった。少年ジャックが魔法の豆を手に入れ、成長した豆の木を登って天にいる大男の家から宝物を持ってくる話である。思いがけず学生たちは熱い議論になった。大きな争点は、「ジャックは宝物を大男から略奪したのか、それとも取り返したのか」という点だった。

意見は、「ジャックは大男の家から宝物を盗み、勝手に持ち帰ってきた」という主張と、「大男が持っていた宝物は、もともと大男に殺されたジャックの父親のものだった」という主張に分かれていた。本によって物語の内容が違うため、それぞれの学生が知っているジャックと豆の木の内容も少しずつ違うのである。人は最初に見聞きし触れた内容を正しいものと思い込む傾向がある。「インプリンティング」(刷り込み)と呼ばれるものである。学生は自分が最初に触れた絵本の内容が正しいと思い議論を行っていた。

童話やおとぎ話との最初の出会いは幼児期であることが多い。しかし、手にする絵本、読み聞かせで触れる絵本によって、同じ物語でありながら内容が違うことも珍しくない。園児が最初に触れる童話やおとぎ話をどの絵本にするか、どの内容のものにするかということはとても重要なため、しっかりと選書して提供していきたい。

ところで、前述の『ジャックと豆の木』ですが、「ジャックは宝物を大男から略奪したのか、それとも取り返したのか」、どちらが本当だと思いますか・・・？

